

現在の勤務先別で、「そう思う」との回答をみると、西成区では“医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い”が61.8%で最も多いが、それ以外の区では“急な退院などで対応に困ったことがある”が最も多く、なかでも住之江区が74.3%で最も高い割合となっている。(表17-b)

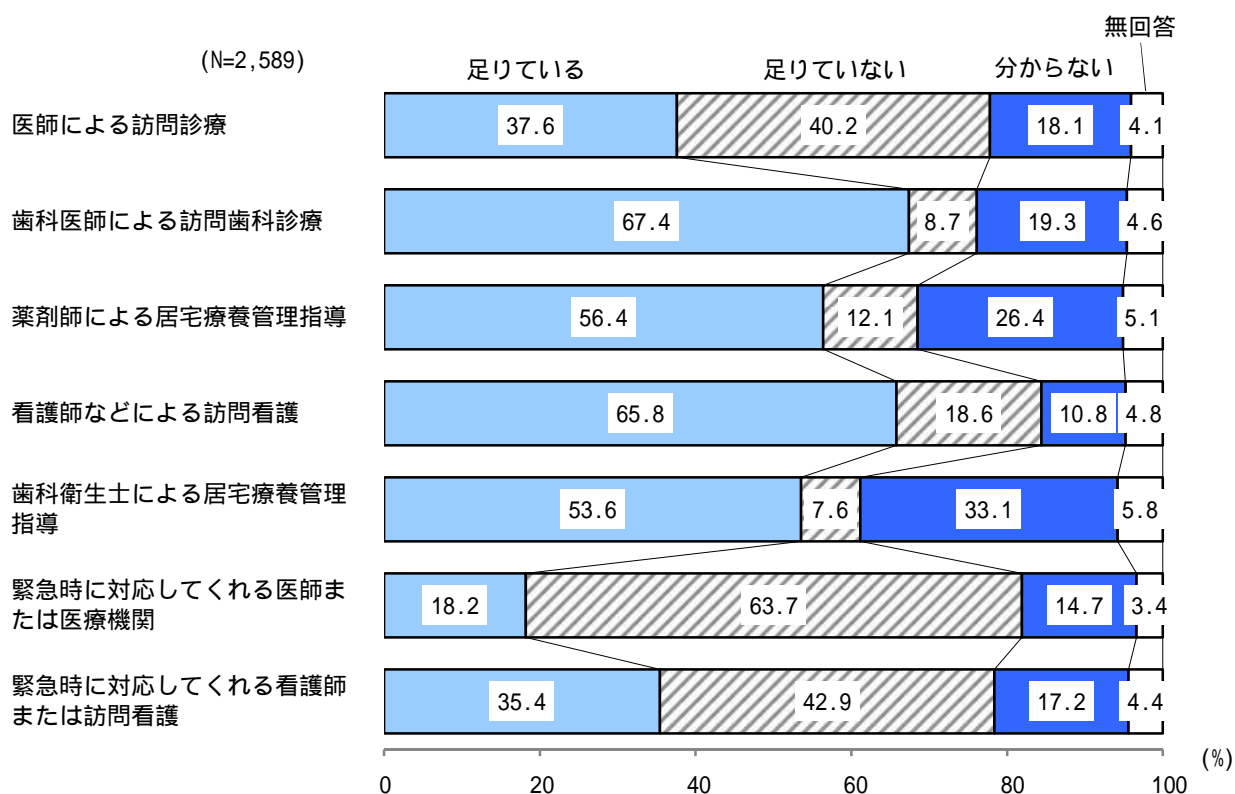
【表17-b 在宅で医療的処置が必要な利用者への支援を行ううえで困っていること[「そう思う」の割合](現在の勤務先別)】

	「そう思う」の割合(%)							
	医療ニーズの高い患者を担当してくれるかかりつけ医がなかなか見つからない	医療ニーズの高い患者に対応が可能な訪問看護がなかなか見つからない	医療と連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い	医師や看護師の専門的な用語がわかりにくい	急な退院などで対応に困ったことがある	退院時に患者や家族は病状について、十分な説明を受けていない	対応に困った時に相談するところがない	在宅医療などの医療に関する勉強会や研修の場が少ない
全体(N=2,589)	30.2	18.8	56.0	45.5	63.7	43.6	28.2	41.9
北区(N=74)	20.3	8.1	47.3	32.4	60.8	45.9	24.3	33.8
都島区(N=89)	36.0	18.0	62.9	41.6	69.7	50.6	31.5	32.6
福島区(N=49)	24.5	12.2	51.0	53.1	53.1	30.6	24.5	34.7
此花区(N=46)	26.1	10.9	43.5	43.5	67.4	32.6	28.3	34.8
中央区(N=73)	32.9	24.7	58.9	42.5	67.1	42.5	26.0	37.0
西区(N=77)	35.1	26.0	70.1	42.9	74.0	42.9	26.0	46.8
港区(N=57)	24.6	17.5	61.4	52.6	66.7	36.8	24.6	36.8
大正区(N=79)	20.3	15.2	54.4	48.1	67.1	36.7	19.0	35.4
天王寺区(N=69)	17.4	14.5	50.7	52.2	53.6	27.5	20.3	40.6
浪速区(N=55)	38.2	34.5	58.2	36.4	65.5	50.9	29.1	52.7
西淀川区(N=63)	27.0	11.1	60.3	55.6	66.7	38.1	25.4	46.0
淀川区(N=119)	27.7	16.0	58.8	53.8	63.9	47.1	36.1	52.9
東淀川区(N=175)	31.4	17.7	58.3	44.6	70.3	40.6	26.9	36.0
東成区(N=74)	21.6	13.5	51.4	50.0	63.5	48.6	14.9	35.1
生野区(N=179)	29.6	20.7	53.1	43.0	62.6	43.0	25.1	31.8
旭区(N=102)	22.5	11.8	45.1	43.1	51.0	37.3	23.5	36.3
城東区(N=110)	30.9	14.5	57.3	41.8	61.8	43.6	29.1	44.5
鶴見区(N=79)	24.1	16.5	53.2	46.8	65.8	49.4	26.6	43.0
阿倍野区(N=137)	24.8	17.5	51.8	44.5	61.3	38.7	25.5	37.2
住之江区(N=109)	33.0	22.0	60.6	50.5	74.3	56.0	34.9	45.9
住吉区(N=162)	33.3	23.5	52.5	44.4	58.0	40.7	30.9	48.1
東住吉区(N=197)	37.1	21.3	52.8	49.7	62.9	49.2	31.0	40.6
平野区(N=185)	35.7	19.5	57.8	42.7	61.6	49.2	36.2	49.2
西成区(N=220)	35.5	24.5	61.8	43.6	61.4	43.6	32.3	51.8

問18 在宅医療を進めていく上で必要な社会資源

在宅医療を進めていくうえで必要な社会資源についてお伺いします。( はそれぞれひとつ)

【図18 在宅医療を進めていく上で必要な社会資源】



在宅医療を進めていく上で必要な社会資源について、「足りていない」の割合が高いのは、「緊急時に対応してくれる医師または医療機関」が63.7%で最も高く、次いで「緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護」が42.9%、「医師による訪問診療」が40.2%となっている。(図18)

現在の勤務先別で「足りていない」の割合をみると、いずれの区も「緊急時に対応してくれる医師または医療機関」が最も多く、なかでも西淀川区が76.2%で最も高い割合となっている。(表18-a)

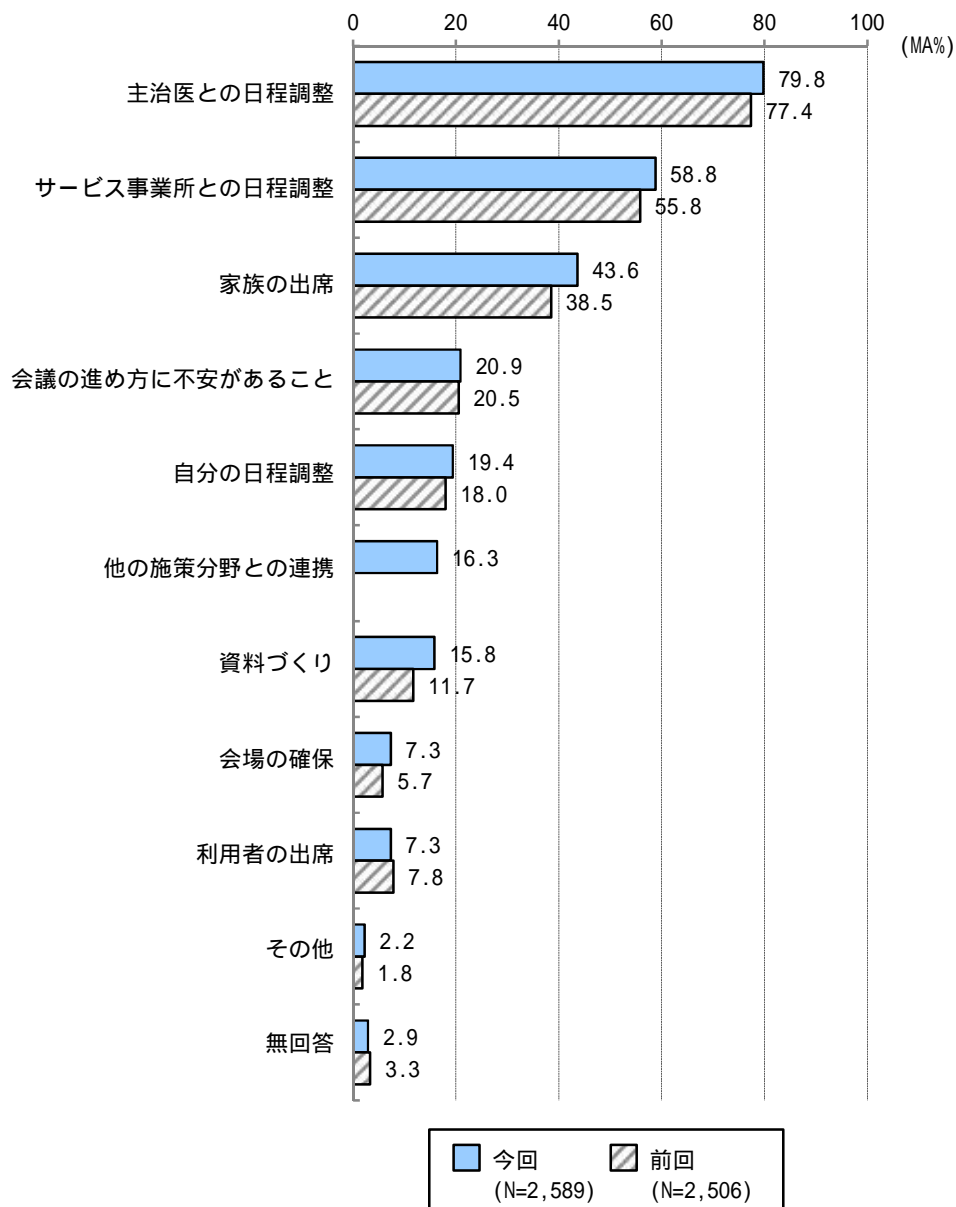
【表18-a 在宅医療を進めていく上で必要な社会資源[「足りていない」の割合](現在の勤務先別)】

	「足りていない」の割合(%)						
	医師による訪問診療	歯科医師による訪問歯科診療	薬剤師による居宅療養管理指導	看護師などによる訪問看護	歯科衛生士による居宅療養管理指導	緊急時に対応してくれる医師または医療機関	緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護
全体(N=2,589)	40.2	8.7	12.1	18.6	7.6	63.7	42.9
北区(N=74)	48.6	10.8	12.2	12.2	10.8	68.9	36.5
都島区(N=89)	46.1	7.9	19.1	12.4	5.6	65.2	34.8
福島区(N=49)	38.8	10.2	10.2	12.2	6.1	59.2	34.7
此花区(N=46)	39.1	4.3	8.7	10.9	4.3	56.5	34.8
中央区(N=73)	35.6	4.1	8.2	31.5	4.1	56.2	47.9
西区(N=77)	48.1	14.3	13.0	14.3	13.0	67.5	46.8
港区(N=57)	36.8	3.5	10.5	22.8	5.3	61.4	49.1
大正区(N=79)	34.2	13.9	16.5	17.7	10.1	67.1	43.0
天王寺区(N=69)	27.5	7.2	7.2	15.9	5.8	53.6	36.2
浪速区(N=55)	38.2	12.7	12.7	23.6	9.1	65.5	47.3
西淀川区(N=63)	34.9	11.1	14.3	15.9	11.1	76.2	49.2
淀川区(N=119)	44.5	7.6	12.6	16.0	7.6	66.4	42.9
東淀川区(N=175)	55.4	6.3	13.7	8.0	2.9	66.3	38.3
東成区(N=74)	33.8	10.8	16.2	25.7	12.2	59.5	43.2
生野区(N=179)	31.3	6.1	11.2	19.0	7.8	61.5	45.8
旭区(N=102)	27.5	9.8	13.7	14.7	11.8	50.0	35.3
城東区(N=110)	37.3	5.5	9.1	10.9	9.1	60.0	31.8
鶴見区(N=79)	43.0	7.6	11.4	16.5	5.1	72.2	40.5
阿倍野区(N=137)	48.2	9.5	13.1	18.2	8.0	64.2	47.4
住之江区(N=109)	50.5	11.9	14.7	31.2	7.3	71.6	52.3
住吉区(N=162)	38.9	9.9	10.5	21.6	6.8	63.0	53.1
東住吉区(N=197)	34.5	7.1	7.1	18.3	6.1	56.9	36.0
平野区(N=185)	40.5	6.5	10.3	18.9	5.9	65.9	35.7
西成区(N=220)	37.3	11.8	13.6	28.2	10.0	65.0	50.9

問19 サービス担当者会議の開催にあたり困難と感じていること

サービス担当者会議の開催にあたり、困難と感じていることは何ですか。  
 (あてはまるものすべてに )

【図19 サービス担当者会議の開催にあたり困難と感じていること(比較)】



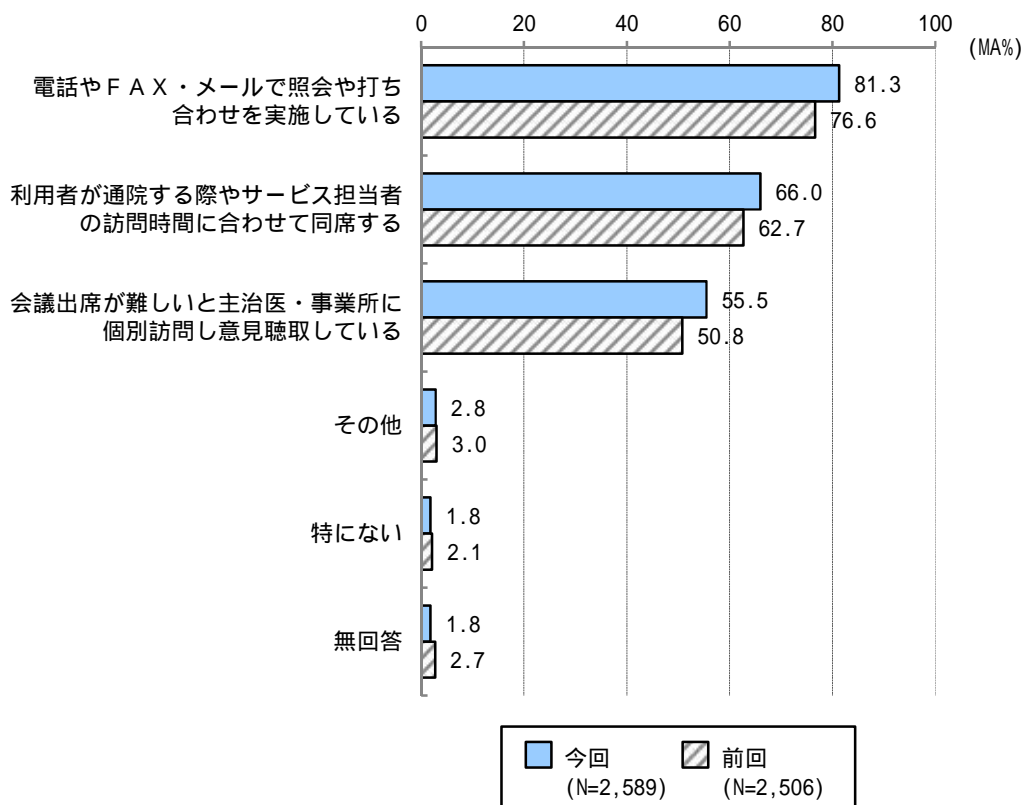
開催にあたり困難と感じていることは、「主治医との日程調整」が79.8%と最も多く、次いで「サービス事業所との日程調整」が58.8%となっている。

前回調査と比較すると、「利用者の出席」を除くすべての項目において、割合が前回より高くなっている。(図19)

問20 サービス担当者会議の開催にあたり工夫していること

サービス担当者会議の開催にあたり担当者への聴取や調整等で、工夫している点があれば教えてください。（あてはまるものすべてに ）

【図20 サービス担当者会議の開催にあたり工夫していること（比較）】



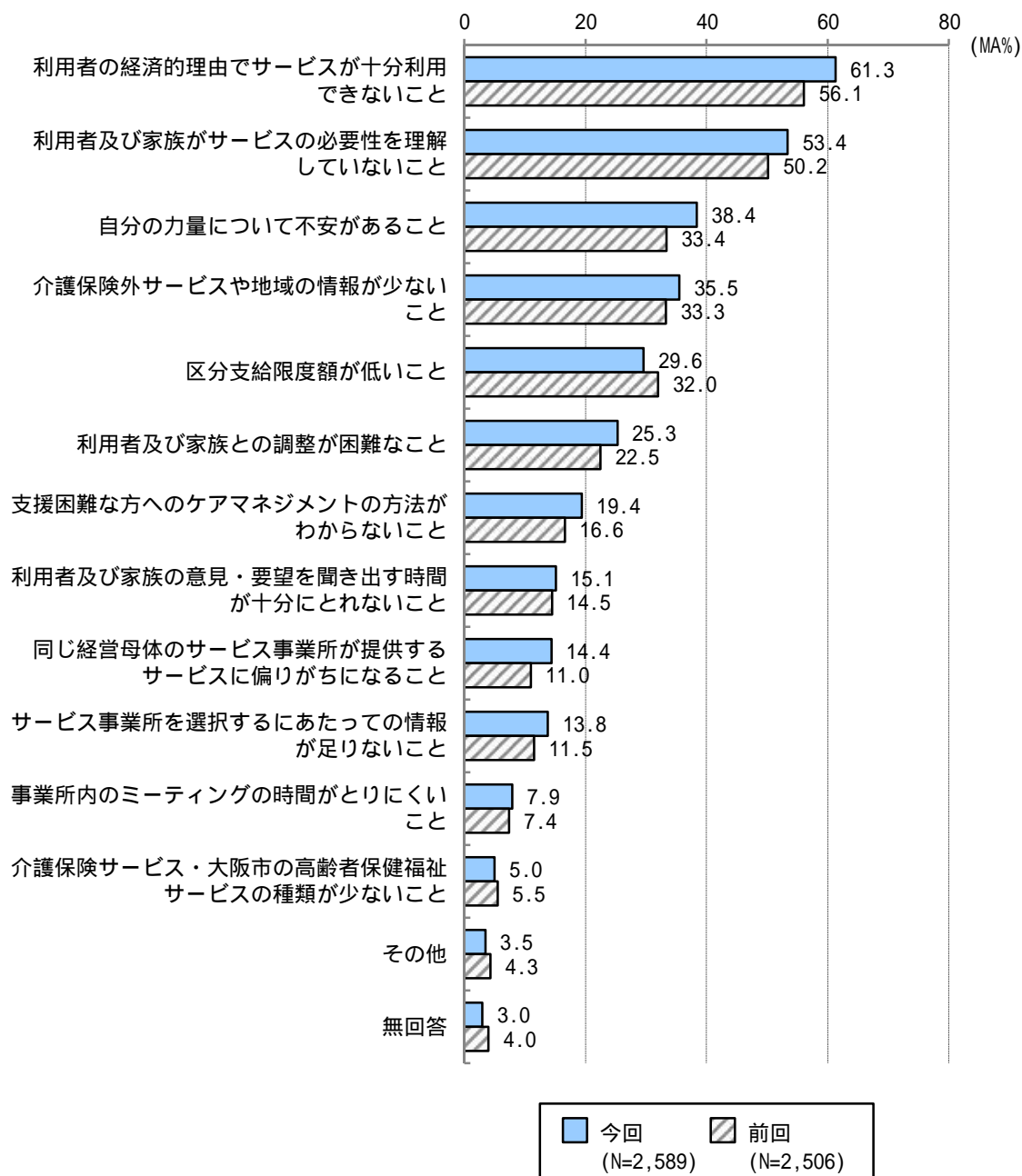
開催にあたり工夫していることは、「電話やFAX・メールで照会や打ち合わせを実施している」が81.3%と最も多く、次いで「利用者が通院する際やサービス担当者の訪問時間に合わせて同席する」が66.0%となっている。

前回調査と比較すると、すべての項目において、割合が前回より高くなっている。（図20）

問21 ケアプラン作成にあたり課題と考えていること

ケアプランを作成するにあたって、課題として考えているのはどのようなことですか。  
 (あてはまるものすべてに )

【図21 ケアプラン作成にあたり課題と考えていること】



ケアプラン作成にあたり課題と考えていることについては、「利用者の経済的理由でサービスが十分利用できないこと」が61.3%と最も多く、次いで「利用者及び家族がサービスの必要性を理解していないこと」が53.4%となっている。

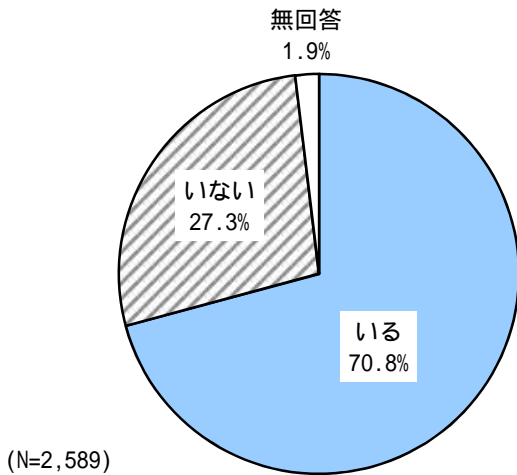
前回調査と比較すると、「利用者の経済的理由でサービスが十分利用できないこと」が5.2ポイント、「自分の力量について不安があること」が5.0ポイント、それぞれ増加している。(図21)

#### (4) 支援困難な利用者への対応状況

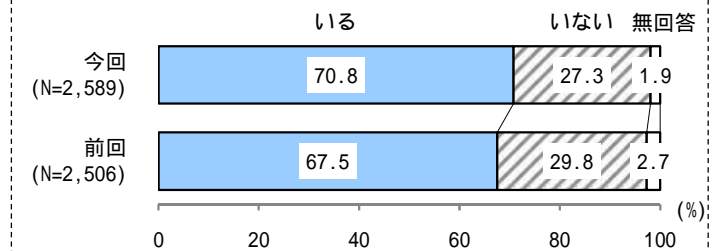
##### 問22 支援困難な利用者の有無

あなたが担当している利用者のなかに、様々な理由で支援が困難な方がいますか。( はひとつ )

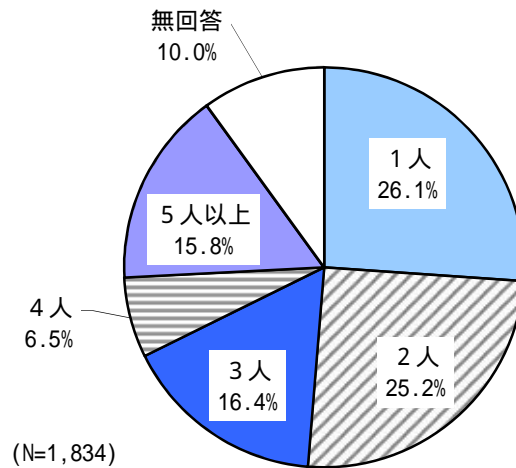
【図22 支援困難な利用者の有無】



【図22 -1 支援困難な利用者の有無 (比較)】



【図22 支援困難者の人数】



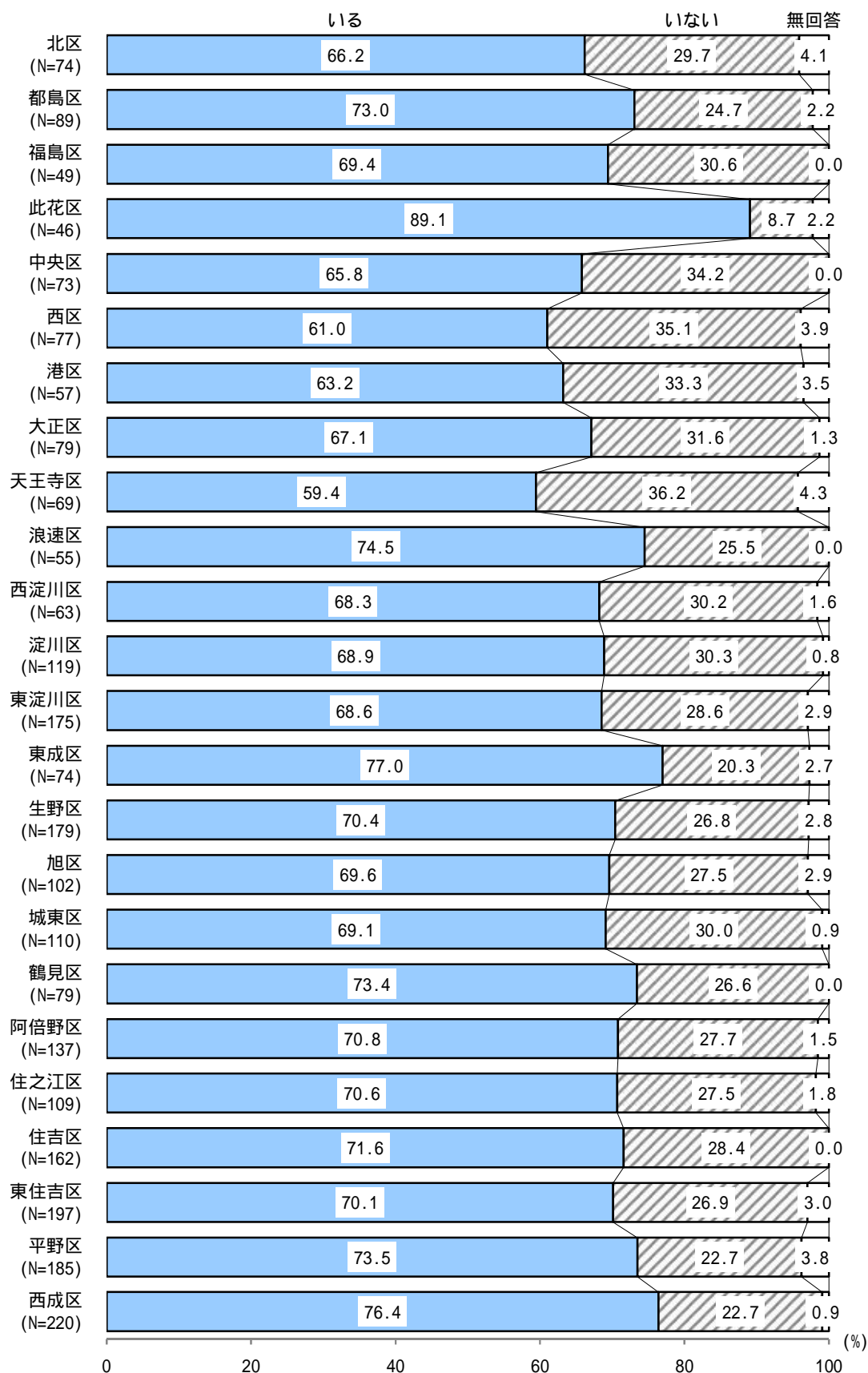
担当している利用者のうち支援困難な方は、「いる」が70.8%となっている。(図22 )

前回調査と比較すると、「いる」が3.3ポイント増加している。(図22 -1)

「いる」と回答した人のうち、支援困難者の人数は、「1人」が26.1%で最も多く、次いで「2人」が25.2%となっている。(図22 )

現在の勤務先別でみると、支援困難な利用者が“いる”人では「此花区」が89.1%で最も高く、次いで「東成区」が77.0%となっている。“いない”人では「天王寺区」が36.2%で最も多く、次いで「西区」が35.1%が続いている。(図22 -a)

【図22 -a 支援困難な利用者の有無（現在の勤務先別）】

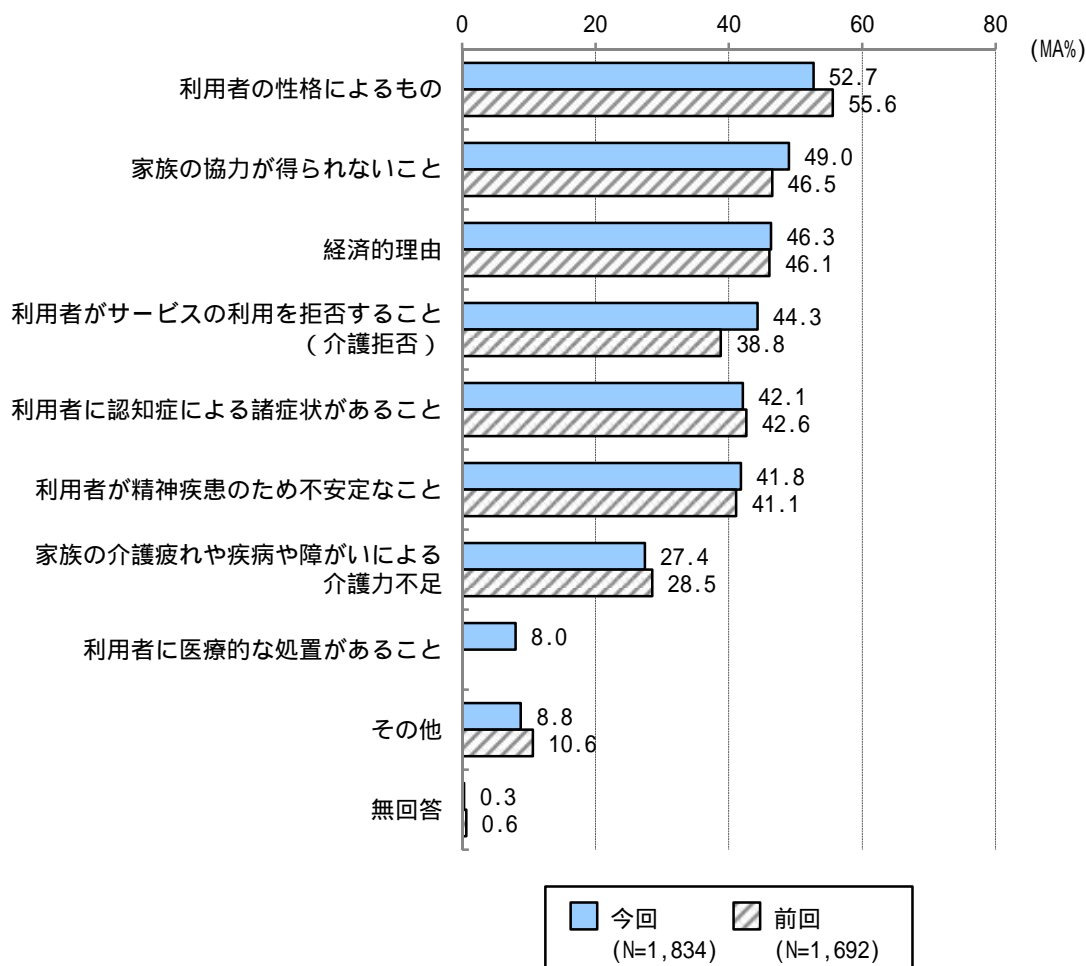




### 問23 支援困難の内容

問22で支援が困難な方がいると答えられた方へ、どのようなことで支援が困難となっておりますか。(あてはまるものすべてに )

【図23 支援困難の内容】



前回調査は「利用者に医療的な処置があること」がなかった。

支援困難の内容については、「利用者の性格によるもの」が52.7%と最も多く、次いで「家族の協力が得られないこと」が49.0%、「経済的理由」が46.3%となっている。

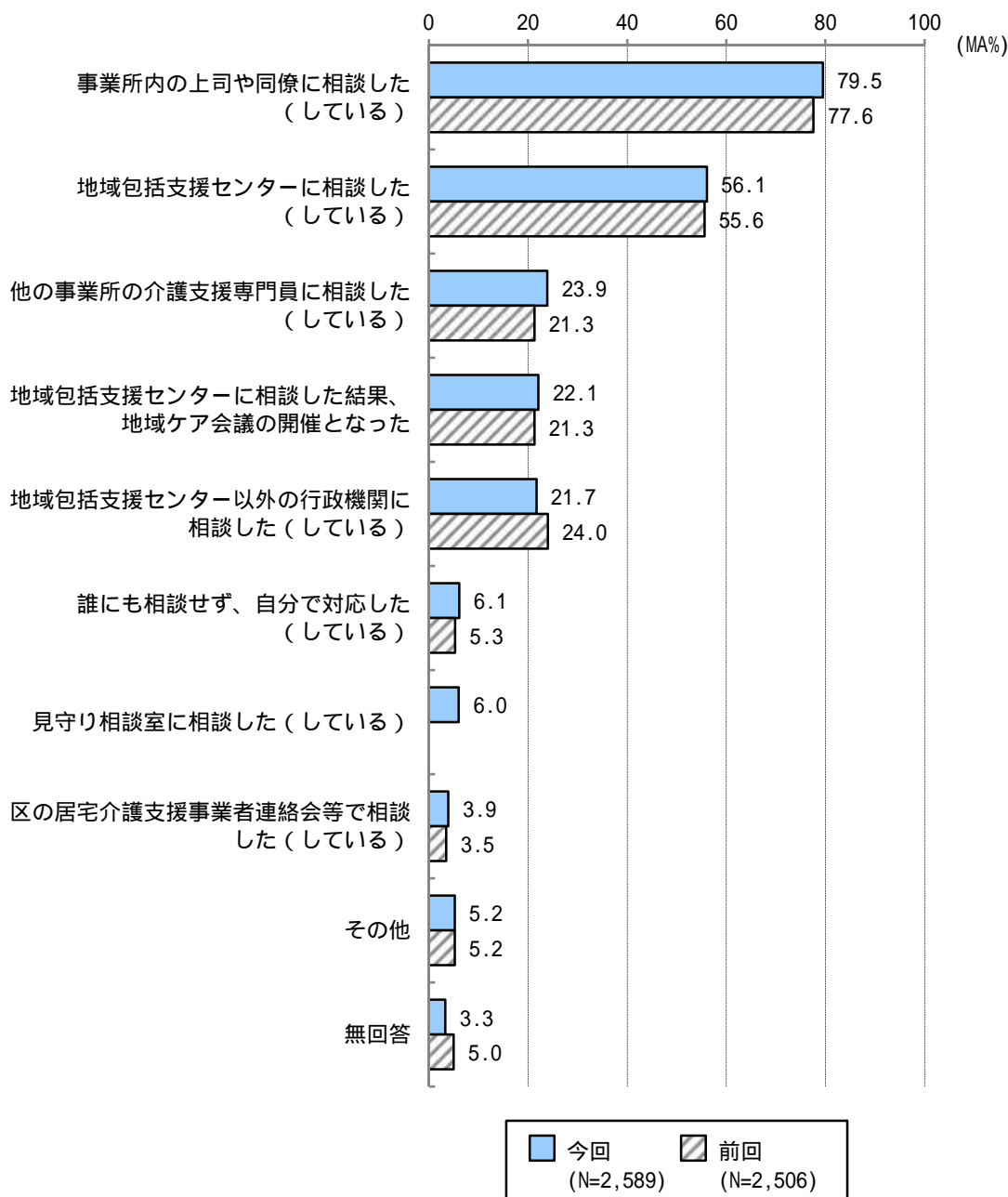
なお、「その他」として、「身寄りがいない」、「住環境が劣悪」、「虐待が疑われる」、「利用者がアルコール依存（飲酒する）」などがあつた。

前回調査と比較すると、「利用者がサービスの利用を拒否すること（介護拒否）」が5.5ポイント増加している。(図23)

問24 支援困難事例の対応方法

あなたは支援が困難な方についてどのように対応してきましたか。  
 (あてはまるものすべてに )

【図24 支援困難事例の対応方法（比較）】

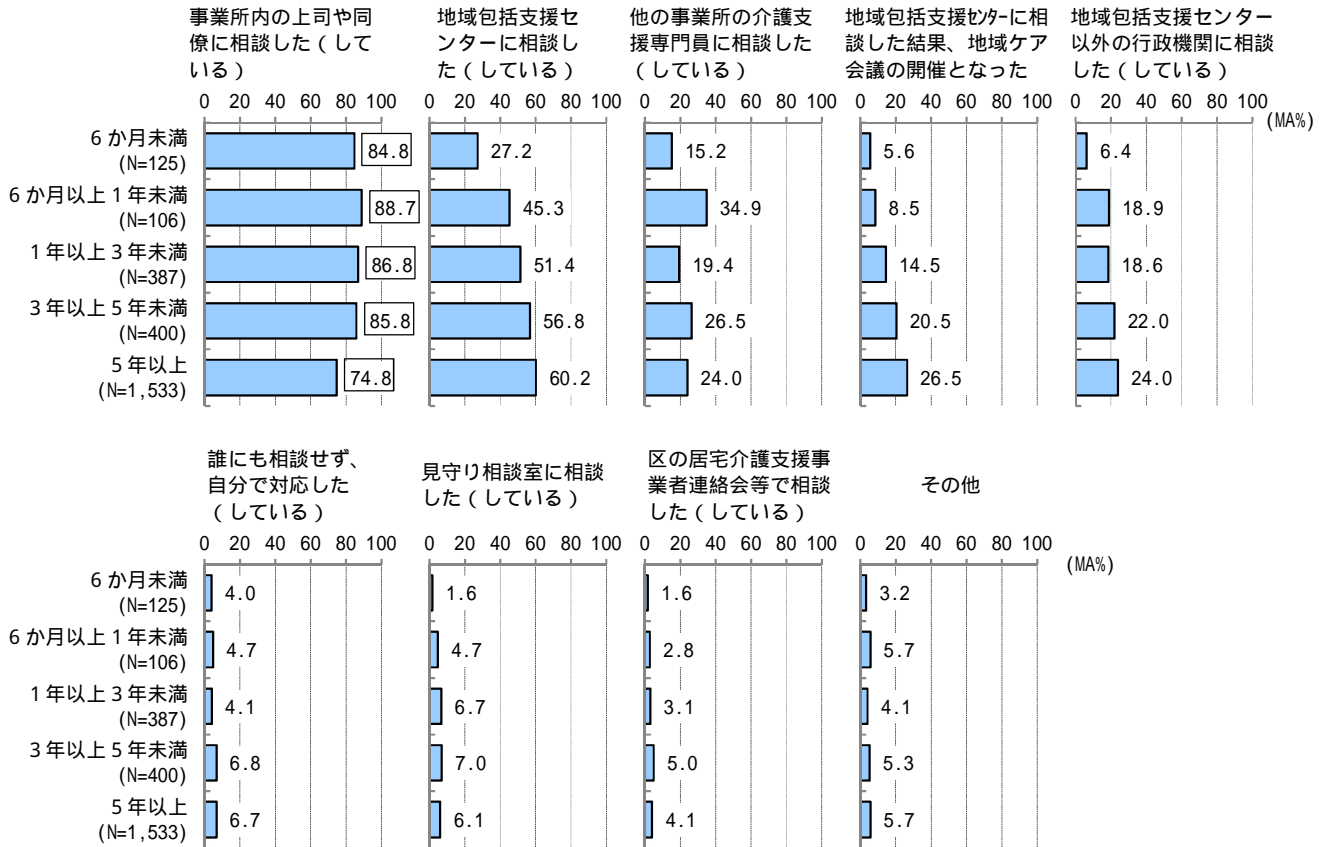


支援困難事例の対応方法については、「事業所内の上司や同僚に相談した (している)」が79.5%で最も多く、次いで「地域包括支援センターに相談した (している)」が56.1%となっている。

前回調査と比較しても、同様の傾向であり、大きな差はみられない。(図24)

介護支援専門員の経験年数別でみると、いずれも「事業所内の上司や同僚に相談した(している)」が最も多く、なかでも“6か月以上1年未満”が88.7%で最も高くなっている。(図24-a)

【図24-a 支援困難事例の対応方法(介護支援専門員の経験年数別)】



現在の勤務先別でも、いずれの区も「事業所内の上司や同僚に相談した(している)」が最も多く、次いで「地域包括支援センターに相談した(している)」が多くなっている。(表24-b)

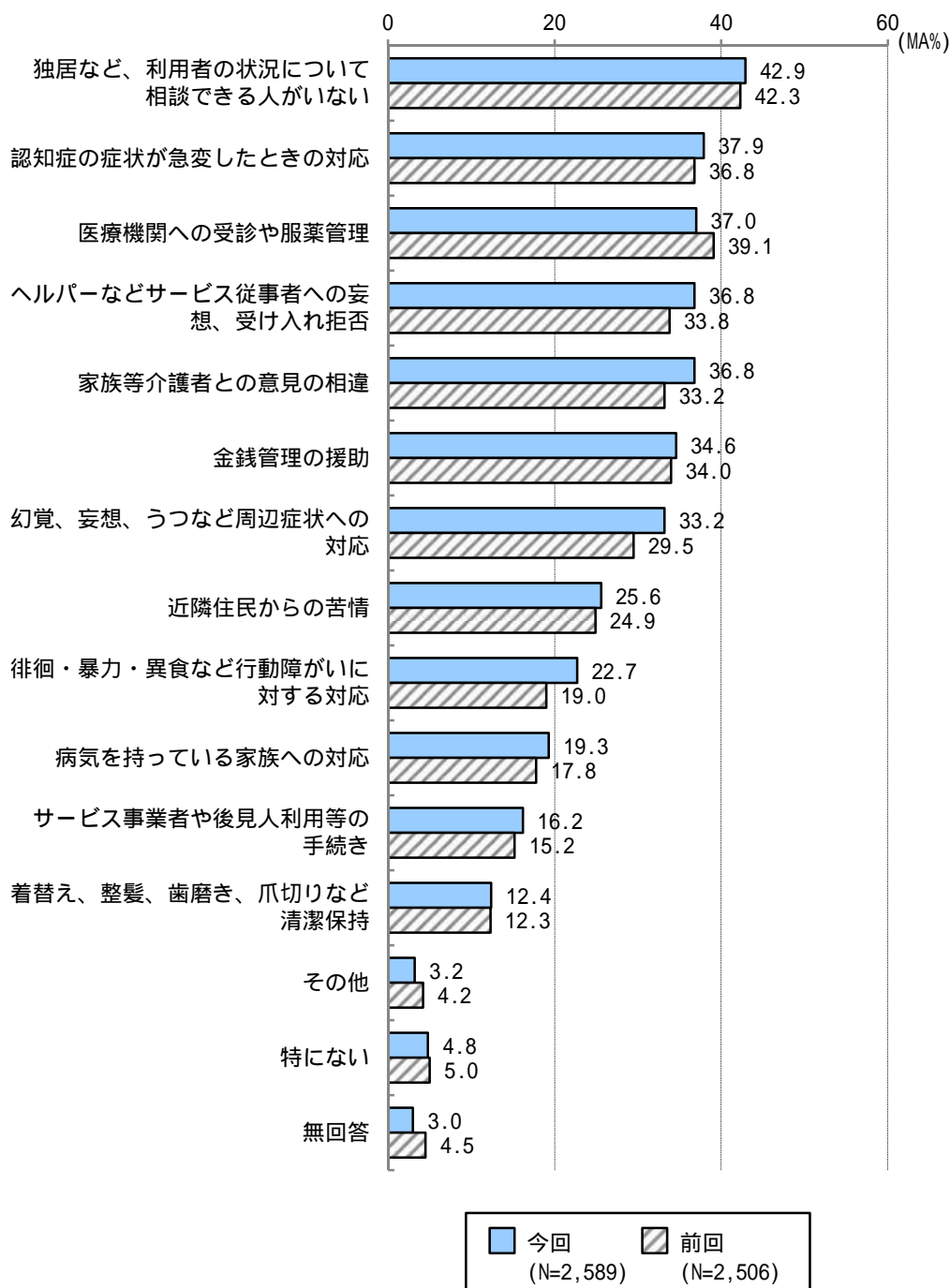
【表24-b 支援困難事例の対応方法(現在の勤務先別)】

	事業所内の上司や同僚に相談した(している)	他の事業所の介護士等に相談した(している)	地域包括支援センターに相談した(している)	地域の包括支援センターに相談した(している)	地域の行政機関に相談した(している)	見守り相談室に相談した(している)	連絡先等で相談した(している)	誰にも相談せず、自分で対応した(している)	その他	無回答
北区(N=74)	73.0	24.3	55.4	13.5	23.0	1.4	4.1	2.7	2.7	9.5
都島区(N=89)	84.3	31.5	53.9	30.3	28.1	11.2	4.5	3.4	6.7	2.2
福島区(N=49)	79.6	22.4	57.1	14.3	28.6	10.2	4.1	4.1	2.0	0.0
此花区(N=46)	89.1	23.9	63.0	19.6	26.1	8.7	8.7	4.3	8.7	0.0
中央区(N=73)	76.7	21.9	45.2	20.5	21.9	4.1	9.6	5.5	4.1	4.1
西区(N=77)	84.4	24.7	51.9	20.8	18.2	10.4	5.2	0.0	3.9	2.6
港区(N=57)	84.2	24.6	59.6	19.3	29.8	0.0	3.5	12.3	3.5	1.8
大正区(N=79)	73.4	27.8	58.2	19.0	35.4	10.1	3.8	5.1	5.1	2.5
天王寺区(N=69)	85.5	15.9	59.4	26.1	26.1	4.3	2.9	4.3	1.4	2.9
浪速区(N=55)	74.5	38.2	45.5	16.4	25.5	1.8	3.6	12.7	3.6	3.6
西淀川区(N=63)	81.0	14.3	55.6	27.0	12.7	14.3	1.6	6.3	3.2	1.6
淀川区(N=119)	75.6	21.8	59.7	20.2	29.4	7.6	4.2	5.9	4.2	4.2
東淀川区(N=175)	82.3	22.9	46.9	24.6	19.4	2.9	2.9	5.7	1.7	4.0
東成区(N=74)	79.7	36.5	68.9	29.7	17.6	5.4	2.7	6.8	8.1	0.0
生野区(N=179)	73.2	26.3	53.1	23.5	19.6	1.1	2.8	7.8	8.4	4.5
旭区(N=102)	83.3	29.4	52.9	17.6	23.5	5.9	3.9	6.9	6.9	2.9
城東区(N=110)	83.6	20.9	50.0	21.8	14.5	5.5	1.8	5.5	7.3	1.8
鶴見区(N=79)	67.1	27.8	64.6	26.6	15.2	13.9	0.0	12.7	8.9	1.3
阿倍野区(N=137)	80.3	16.8	50.4	22.6	17.5	8.0	5.8	2.9	4.4	5.8
住之江区(N=109)	83.5	23.9	56.0	22.9	26.6	3.7	4.6	8.3	5.5	5.5
住吉区(N=162)	78.4	22.8	56.2	26.5	21.0	7.4	6.2	6.2	3.1	3.7
東住吉区(N=197)	82.2	22.3	59.9	17.8	13.7	7.1	2.5	4.1	6.1	4.1
平野区(N=185)	84.3	23.8	65.4	24.3	19.5	5.9	3.2	6.5	4.3	2.2
西成区(N=220)	74.5	22.7	57.3	18.6	25.0	3.2	4.5	8.6	8.2	1.8

問25 認知症高齢者のケアプラン作成にあたり困難に感じていること

担当する認知症高齢者のケアプラン作成にあたって、特に困難を感じていることはありますか。  
 (あてはまるものすべてに )

【図25 認知症高齢者のケアプラン作成にあたり困難に感じていること】



認知症高齢者のケアプラン作成にあたり困難に感じていることについては、「独居など、利用者の状況について相談できる人がいない」が42.9%で最も多く、次いで「認知症の症状が急変したときの対応」が37.9%、「医療機関への受診や服薬管理」が37.0%となっている。

前回調査と比較すると、「医療機関への受診や服薬管理」がやや減少しているが、それ以外の項目は前回より増加している。(図25)